

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

日本史

総括

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

昨年度と同じく大問5つで構成され、問題Ⅰが歴史総合（日世共通問題）、問題Ⅱ～Ⅴが日本史探究からの出題である。分量は全体で44行、選択問題が1小問。論述問題の行数は昨年に比べて増加したが、一昨年とほぼ同じである。昨年度は語句記述が14小問あったものの、今年度は全くなく選択問題が1小問だけとなった。

〈特記事項・トピックス〉

歴史総合の出題は昨年度と同じく世界史との共通問題であった。知識を問う問題も多いが、史料の読み取りに基づく説明問題が出題されている。

〈合格への学習対策〉

論述問題への対策が不可欠である。用語の内容説明と資料の読み取りの2種類の対応が必要だが、共通テスト対策と並行しながら書く作業を進めたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	論述	19世紀末～20世紀初頭の国際関係	イギリスにとって日露戦争のもった意味というテーマで、イギリスとフランス、ロシア、ドイツとの関係とその推移が問われた。	難
II	論述	古代から近世の絵画史	白鳳文化期の絵画の特色、平安時代に新たな宗教画が描かれた背景、平安末期の絵巻物、雪舟の画風、安土桃山時代の絵師、江戸時代に浮世絵が庶民に普及した理由	やや難
III	論述	古代の歴史資料	律令制下の国司・郡司の相違、木簡の読み取り、藤原種継暗殺事件、後三条天皇の時代の特徴	やや難
IV	論述	室町時代の政治	太平記の内容説明、山名氏帰順をめぐる幕府の対応（史料読み取り）、守護の権限拡大、明徳の乱の背景（史料読み取り）	難
V	論述	江戸幕末期～現代の地震	日露和親条約での国境規定、後期水戸学の影響、大戦末期の地震が隠蔽された理由（史料読み取り）、関東大震災における朝鮮人虐殺事件の背景、村山談話の要点	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。